

PCC NEWS LETTER

日本赤十字社医療センター緩和ケアカンファレンス

vol.05 2018.11.



地域の緩和ケア紹介

2018年11月14日第144回PCC開催

今回は、矢澤クリニック渋谷（渋谷区大山町）の矢澤聡先生、みなみ東京訪問看護ステーション（世田谷区下馬）の石代真澄先生、柴垣医院（目黒区自由が丘）の松本晶子先生にお越しいただき、施設の特徴や事例を通じた活動をご紹介いただきました。

矢澤クリニックは5月に開設されたばかりですが、矢澤先生の専門である泌尿器科を含め様々な専門家が連携してきめ細やかな診療を心がけておられ、腎臓交換など専門的な処置も対応されているそうです。

石代先生からは、利用者の方だけでなくスタッフからも、「やさしい」と言われるステーションであることや、「最期まで家で良かった」と言われた介入ケースをご紹介いただきました。

松本先生は、ご所属である柴垣医院は透析中心のクリニックですが、自由が丘の本院では、各種診療科に加え、がん終末期の看取りケースも含めた在宅医療も展開されているとお話してくださいました。また、緩和ケアががん患者さんだけでなく、全ての人に届くようにと熱く語ってくださいました。

地域で患者さん・ご家族を支えていく上で、このような診療所・看護師・MSWなど様々な職種との連携は重要だと改めて感じました。

PCU便り



【マジックショー】

11月には、恒例となったマジックショーイベントが開催されました。真剣に見ていても、どうにも種が見つかからない！

患者さん・ご家族と笑顔がこぼれる会になりました。



千葉先生のご講演



- 1 東京都がん対策推進計画とは
- 2 東京都のがんの状況
- 3 計画の目標
- 4 計画の構成
- 5 今年度の取組

教育講演「東京都におけるがん対策推進計画」
東京都福祉保健局医療政策部 医療政策課 計画推進担当課長

千葉清隆先生

東京都のがん対策推進計画、東京都のがんの状況、東京都の計画に基づく目標、計画の構成、今年度の取り組みについてお話いただきました。

東京都のがん対策推進計画は、国の計画に基づき、今年3月に第二次の改定がなされました。都では、およそ3人に1人ががんで亡くなっており、その割合は、全国平均よりやや多いということです。部位別で見ると全国平均と大きな変わりはありませんが、男性では、大腸がん・前立腺がん、女性では肺がん・乳がん・子宮がんが若干高い割合を示しています。

それらを踏まえつつ、東京都では、科学的根拠に基づいたがん予防や、がん検診の充実、患者本位のがん医療の充実、尊厳を持って暮らせる地域共生社会の構築を目標に掲げています。緩和ケアの提供体制の検討や相談・情報提供、ライフステージに応じたがん医療の提供として、小児および世代や働く世代への支援も検討されている現状です。今年度は、これらの現状調査を行い、今後の計画に活かしていくというご紹介でした。

皆様是非、東京都がんポータル（第二次改定）をご確認ください。

第145回緩和ケアカンファレンス

2019年1月9日 19:00~20:45開催予定

第145回PCC教育講演は「最期まで在宅療養を支えるこれからの訪問看護」講師は、さくら醫院、浅草医師会立訪問看護ステーションの倉持雅代先生です。長年訪問看護に携わってこられたお立場から、今後に向けたお話をいただきます。地域で暮らす人をどう支えていけるのか、私たち一人ひとりができることを考える機会になると思います。

なお、この会は、日本医師会生涯教育カリキュラムと緩和薬物療法認定薬剤師単位の取得対象になります。ふるってご参加ください。

編集後記

PCC News Letterも第5号となりました。今月初めに当医療センターでは「オープンホスピタル」と称して病院内の見学ツアーや健康教室など、様々なプログラムを開催しました。参加された方の中には、ACPについて考えなくてはいけない事件が起きた、と話されたご高齢の方やご家族もおられ、地域全体で支えていく大切さを痛感しております。今後も皆様と共に地域の方々を支えられるよう、学んでいきたいと思っております。

